

## イランにおける交戦の即時停止と外交交渉による平和的な解決をもとめます

2月28日、米国とイスラエルがイランへ軍事攻撃したことに對し、イランは中東地域全域での報復攻撃を行い、現在も軍事行動と報復の連鎖が続いています。この交戦で中東各地では、子供を含む多くの民間人が犠牲になり、その数は増え続けています。

3月4日、国連の独立調査団は米国とイスラエルによるイラン攻撃とイランの報復攻撃は、国連憲章に違反すると抗議と非難の声明を発表しました。

ロシアによるウクライナ侵攻により、日本とヨーロッパを結ぶ航空路はこれまでも制約を受けてきました。これに加え、今般のイランにおける交戦の影響で、航空機は影響が及ぶ空域を回避するため、さらなる迂回を余儀なくされています。その結果、選択できる経路が制約され、交通量の大幅な増加や複雑な経路変更も生じており、安全運航を維持するために現場が苦慮する状況が生まれています。

また、円安に加え燃油費の高騰も重なり、航空各経営も経済的な影響が避けられない事態となっています。今後の燃油資源を取り巻く状況も極めて困難かつ不確実であり、先行きが不透明な状況が続いています。安定的な航空運航の影響も懸念されるため、労働組合としても看過できない状況です。

航空は、人や文化、経済を結びつける「平和産業」です。戦争や武力衝突は多くの人命を奪い全てを破壊するだけでなく、人々の往来を分断し、航空の安全運航や国際的な交流にも深刻な影響を及ぼします。

私たち航空労組連絡会は、世界平和の実現を強く希求するとともに、民間航空の安全確保と発展を願う立場から、すべての当事者に対し、国際法を尊重し、軍事行動の即時停止と外交交渉による平和的な解決を強く求めます。併せて日本政府に対し、関係各国への対話と協力を促す外交努力を一層強化し、事態の平和的解決に全力を尽くすよう強く求めます。

2026年4月1日  
航空労組連絡会